



Racing Specialities

保存版

RX-7X

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワントンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる!」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

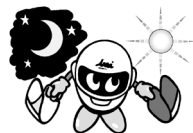
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてストラップに毛羽立ちが生じます。ストラップに毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



ストラップが毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してストラップが次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したストラップでは装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

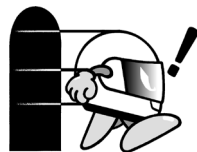
▼走行条件にマッチしたシールド色をお選びください。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままでは走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のシールド(アライヘルメット純正品パーツのクリアーシールド・ライトスモークシールド)に交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境(気温、湿度)は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った(出た)瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面(外面か内面かは状況によって変わります)に結露(露付き現象)が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナー(発泡スチロール製)は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさなください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

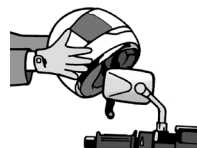
▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンシェードの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会の被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



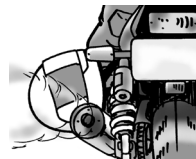
▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、^{げっしるい}齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（ETポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



←ETポイントラベル

※モデルによって、
意匠は異なります。



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実にこなう有効な手段とならない場合があります。

▼ツヤ消し塗装のヘルメットについて

ツヤ消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なツヤが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。

ツヤ消し塗装表面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。

ツヤ消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

▼ベンチレーションダクトについて

ベンチレーションダクトは、強力な両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとするとヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに、ヘルメット製造過程の最終段階である【仕上げ検査】を行った日付がそのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



PB-SNC² RX-7Xの特長

Peripherally Belted - SNC²

PB - SNCの成形用樹脂を大幅に見なおしたPB - SNC²。その前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけてスーパーファイバークロスで補強を行い、帽体全体での剛性を高めています。

ブローベンチレーション

ブローベンチレーションダクトから取り入れられた外気は、インナーサイドダクトによってこめかみ部分へと導かれる。

ICダクト5

スイッチの大型化によって操作性を向上。外気をヘルメット内部へと導く。

ディフューザー・タイプ12

レースからのフィードバックによる、全長が長くなったディフューザー・タイプ12を採用。そして、スイッチの大型化によって操作性も向上。

エアチャンネル

ヘルメットの内壁にそって空気の通り道をつくり、シールド内に停滞する空気をサイドダクトから排出。

デミストロックレバー

フォーミュラカー用ヘルメット【GP - 6】で採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたデミストロックレバーは、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの機能を併せ持つマウスシャッターを採用。

エアロフラップ

高速走行時のヘルメット下部を流れる空気を整えて、ヘルメットを安定させる。

RX-7X EPフルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

FCS構造システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。



- ①デミストロックレバー
- ②ブローベンチレーション
- ③ICダクト5
- ④ディフューザー・タイプ12
- ⑤サイドダクト
- ⑥マウスシャッター
- ⑦エアチャンネル
- ⑧エアロフラップ
- ⑨システムパッド
- ⑩システム内装
- ⑪ストラップカバー
- ⑫システムネック

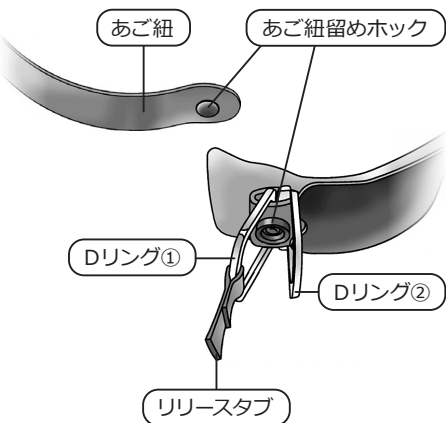


目次

| | | |
|----------|---------------|-------------|
| A | あご紐の正しい締め方 | 12 ~ 13 ページ |
| B | デミストポジションの活用法 | 14 ページ |
| C | VASシールドの開閉 | 15 ページ |
| D | VASシールドの着脱 | 18 ~ 21 ページ |
| E | シールドベースの着脱 | 22 ページ |
| F | ICダクト5の操作 | 24 ページ |
| G | DFIインテークの操作 | 24 ページ |
| H | ディフューザーの操作 | 25 ページ |
| I | ブローシャッターの操作 | 26 ページ |
| J | マウスシャッターの操作 | 26 ページ |
| K | ディフレクターの着脱 | 27 ページ |
| L | エアロフラップの操作 | 27 ページ |
| M | エアロフィン操作 | 28 ~ 29 ページ |
| N | システムパッドの着脱 | 30 ~ 31 ページ |
| O | パッドカバーの着脱 | 32 ~ 33 ページ |
| P | ヘルメットサイズの調節 | 35 ページ |
| Q | システム内装の着脱 | 36 ページ |
| R | システムネックの着脱 | 38 ~ 39 ページ |
| S | ストラップカバーの着脱 | 40 ~ 41 ページ |
| T | ヘルメットのお手入れ | 42 ~ 43 ページ |
| U | オプションパーツリスト | 44 ~ 45 ページ |
| 巻末付録 | | 46 ページ |

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。



あご紐の各部名称

1. 二つのDリングに通す
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

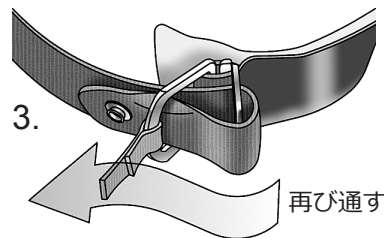
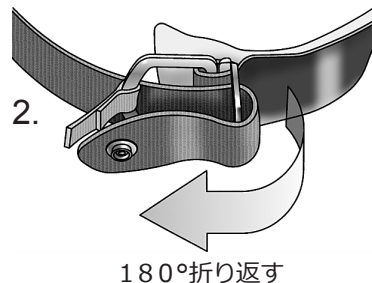
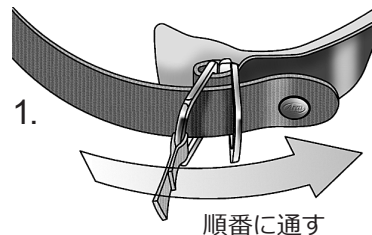
※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。

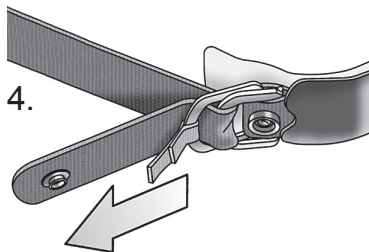
2. あご紐を180°折り返す
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っばってゆみを取り除きながら180°折り返します。

3. Dリング①に再び通す
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

危険

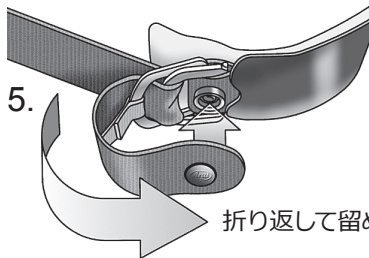
あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。





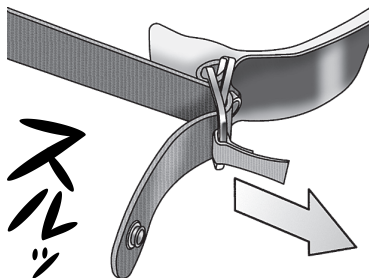
4. あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を【あご紐留めホック】で留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。



リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。
【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。

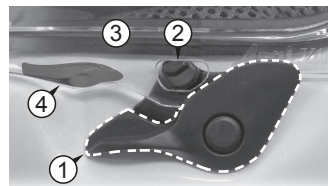


VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー (点線部)
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



Image

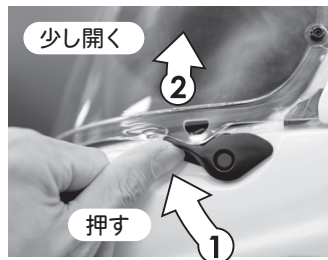
B デミストポジションについて

シールドロックからデミストポジションへ

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態を[デミストポジション]と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



ココを押し上げる



デミストポジションからシールドロックへ

[シールドの指かけ]の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



更に下げる



Image

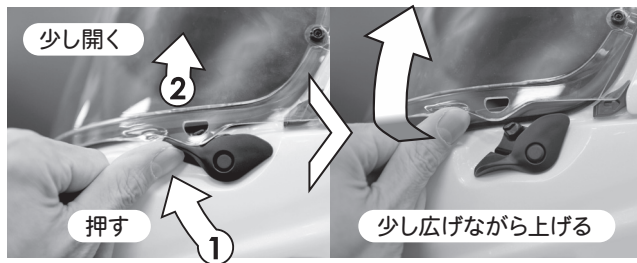
シールドロック完了

C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

[Vロックレバー] 前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

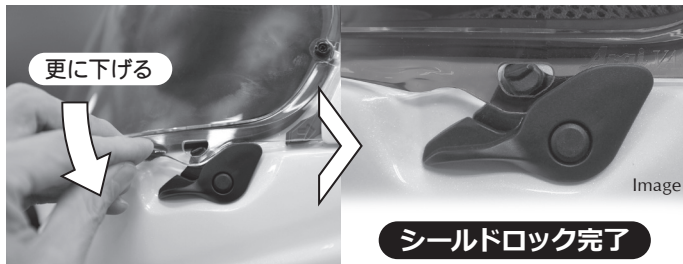
次に、[シールドの指かけ] の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

次に、[シールドの指かけ] の上に指をかけて**デミストポジションから更に**シールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

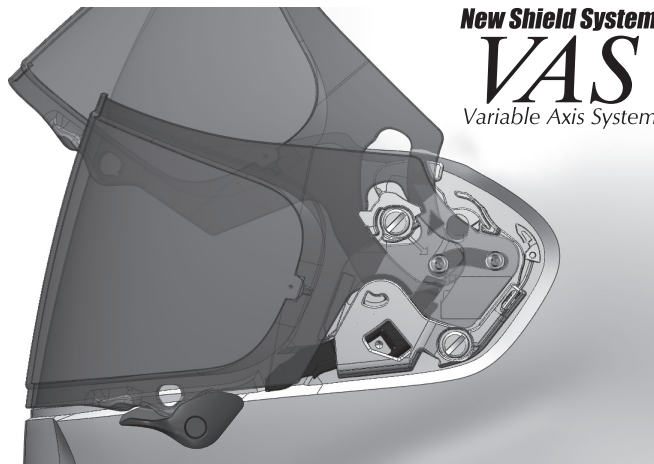
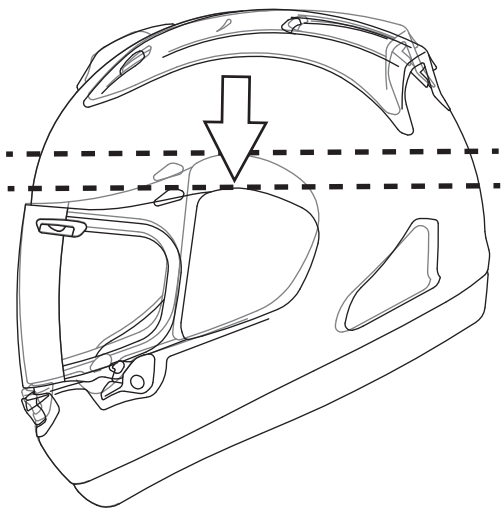


Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。



VASシールドの仕組み

VASシールドは、シールドの回転軸を可変させることで固定された回転軸とは異なる、ホルダー範囲を飛び越す仮想軸を創り出し、ホルダー及びシールドベースのコンパクト化を実現しました。



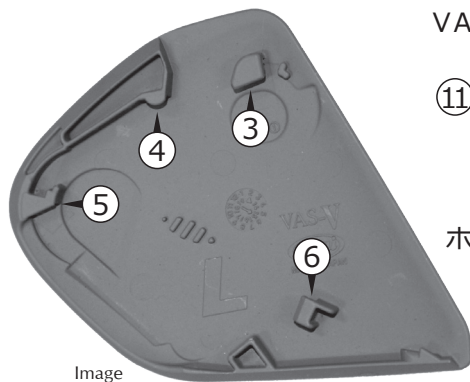
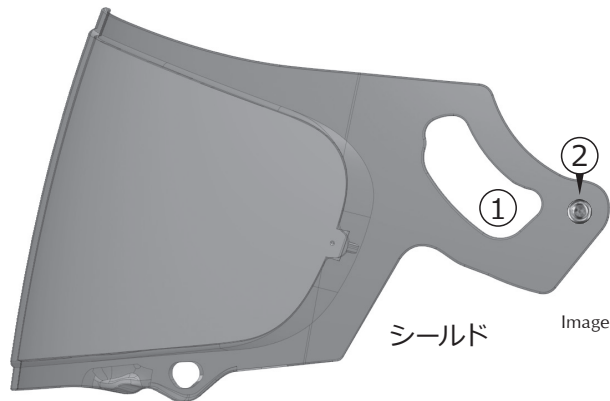
New Shield System
VAS
Variable Axis System

Image

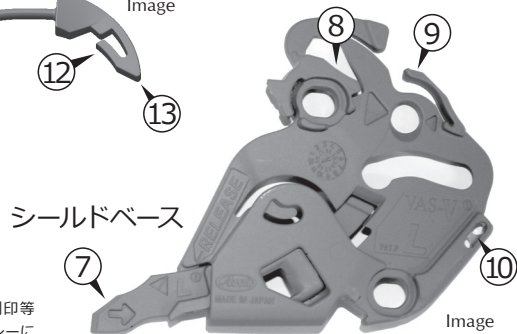
衝撃をかわすために大切な、丸くてなめらかな曲率ゾーンを拡大することで、Araiが提唱する安全性のこだわりをカタチにしました。それが「VAS」です。



| | | |
|--------------|----|---------------|
| シールド | 1 | 摺動穴 |
| | 2 | 金属製のピン |
| ホルダー | 3 | 上部フック (前) |
| | 4 | 上部フック (後) |
| | 5 | VASストリング用マウント |
| | 6 | 下部フック |
| シールドベース | 7 | VASリリースレバー |
| | 8 | 上部フック受け (前) |
| | 9 | 上部フック受け (後) |
| | 10 | VASストリング用マウント |
| VAS ストリング | 11 | アンカー |
| | 12 | 返し |
| | 13 | フック |



ホルダー



※ホルダーやベースは、刻印等を見やすくするために、グレーに着色されています。

D VASシールドの着脱

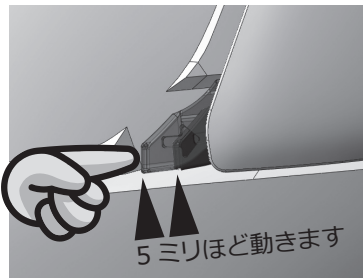
シールドの外し方

①17ページの【VASシールドの開閉】を参考に、シールドを全開にします。

※デミストロックレバーは省略しています。

②ホルダーの前方に見える【VASリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。

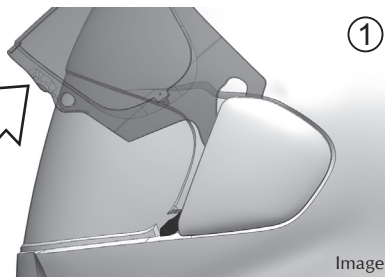
VASリリースレバーは、止まる位置までしっかりと押し込んでください。



Image

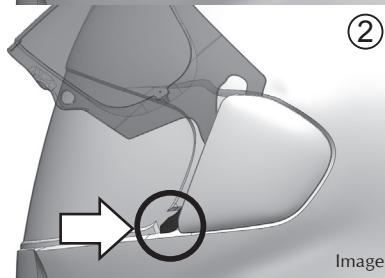
③ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

ホルダーとシールドベースは、落下防止用のVASストリングで繋がっています。



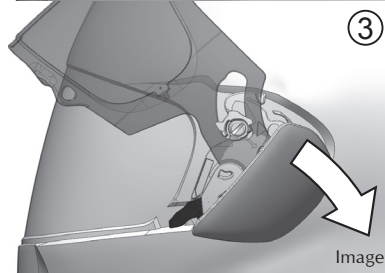
①

Image



②

Image

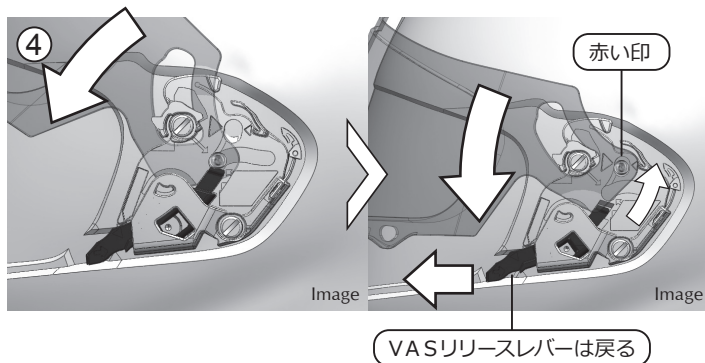


③

Image

④シールドを下げると、通常の開閉とは異なる動きをします。金属製のピンがシールドベースに設けられたスライドレール（～の形をした溝）から外れて、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VASリリースレバーは元の位置に戻ります。

※VASストリングで繋がったホルダーは省略しています。

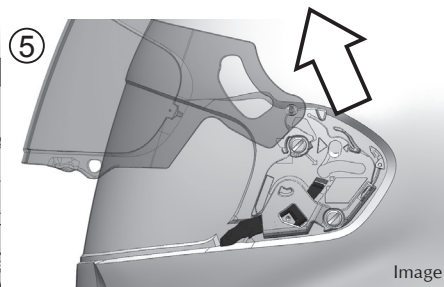
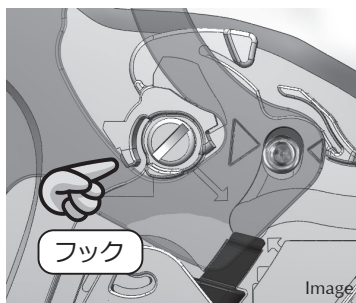


VASリリースレバーが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。



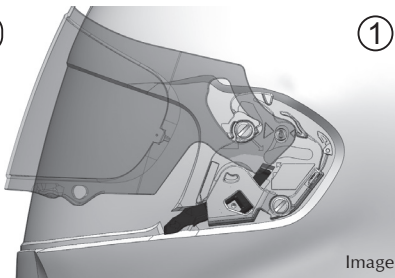
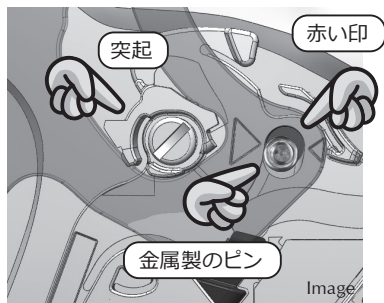
⑤この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくことでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

⑥反対側も同様の手順で取り外しを行ってください。

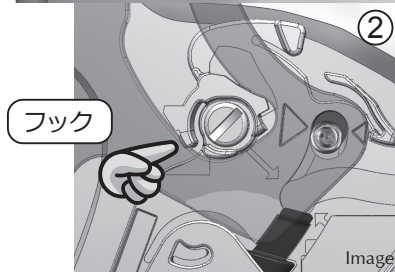


シールドの付け方

①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、金属製のピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。



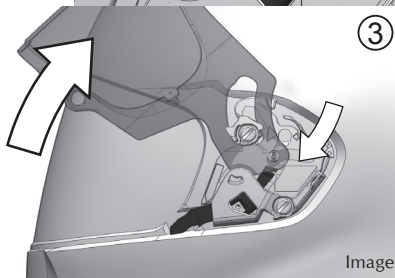
②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。



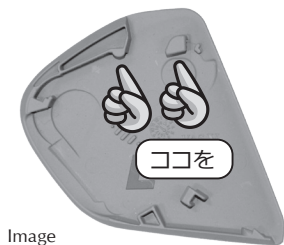
③シールドを上げると、金属製のピンがシールドベースに設けられたスライドレール（～の形をした溝）に入り込みます。

※VASストリングで繋がったホルダーは省略しています。

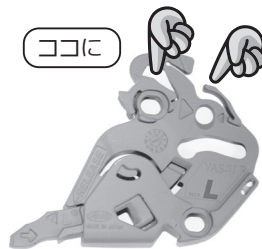
指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認してください。



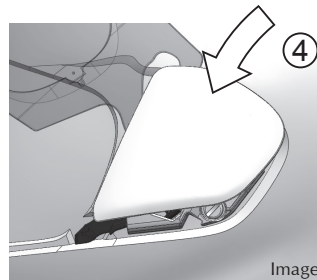
④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベース上部の窪みに引っかけます。



Image



ココに



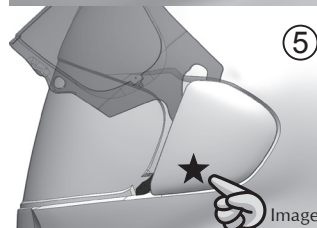
Image

⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、裏面に下部フックが位置する「★」付近をヘルメット側に押し付けてホルダーをロックさせます。反対側のホルダーも同様に取り付けを行ってください。



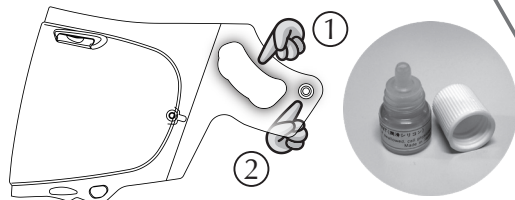
Image

下部フック



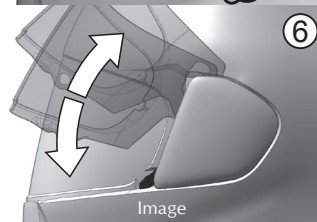
Image

VAS-Vシールドの動きがスムーズでない時には



⑥最後にシールドを数回上下させて作動具合を確認します。

必ず開閉確認を行ってから、ヘルメットをご使用ください。



Image

シールドの摺動穴周辺①と、内側に突き出したシールドピンの軸②に潤滑シリコンを少量塗布し、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かし、シリコンオイルを十分馴染ませてください。※中身が漏れ出すおそれがありますので、潤滑シリコンを使用した後は蓋をしっかりと閉めてください。

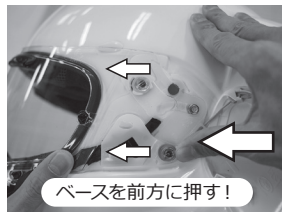
€ シールドベースの着脱

シールドベースを外す際は、左右のホルダーとシールドを外してシールドベースを固定する上下2本のネジを10円玉などの硬貨で回して外します。シールドベースを取り付ける際は、シールドベースの左右を確認してネジで取り付けてください。

■シールドベースの着脱や交換を行ったり違う種類のシールドに取り替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着度合い）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時は下記のようなシールドベースの再調整を行なってください。

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。次にVAS-Vリリースレバーをリセットする（動かしたレバーを元の位置に戻す）ために一旦シールドベースよりシールドを外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少し緩めます。

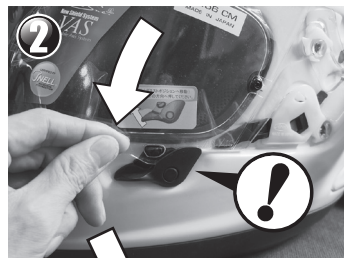
②シールド側の指かけの上に指をかけ、カチッ!と止まるロック完了位置まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースの位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押ししてください。



標準のVAS-V MVシールドからVAS-Vポスト付シールド、VAS-Vダブルレンズシールド等に付け替えた時、またはその逆のパターンを行なった時、この調整を行なってください。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



VASストリングの着脱

ホルダー側のフックの外し方

VASストリングのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。



Image

ホルダー側のフックの付け方

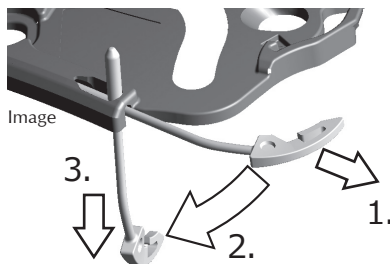
VASストリングのフックを、ホルダーのマウントに奥まで差し込みます。



Image

シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからVASストリングを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け90度折るように曲げるとシールドベースから外れます。



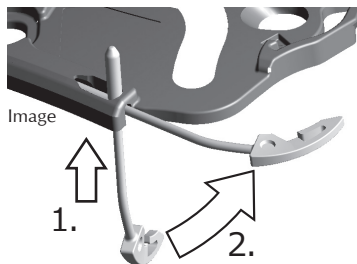
Image

シールドベースを外さないと、VASストリングのアンカーは外せません。



シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にVASストリングのアンカーを裏から差し込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。



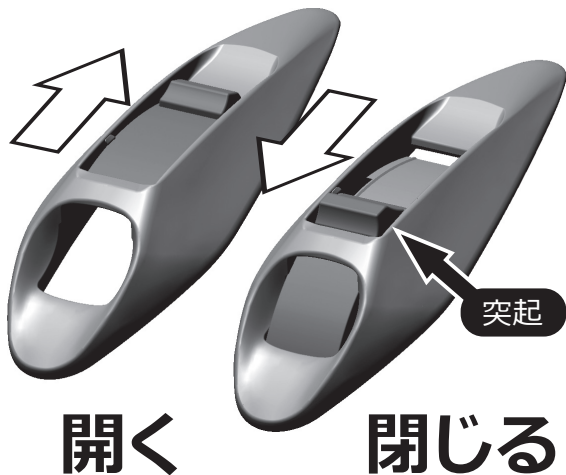
Image

VASストリングを付けずにヘルメットをご使用になると、シールドの着脱の際、ホルダーを床や地面に落とすおそれがあります。



F ICダクト5の操作

ICダクト5のインテークシャッターの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。



雨天時は、インテーク側のシャッターを閉じてご使用ください。



G DFIインテークの操作

ディフューザーシステム・タイプ12の、前方吸気口がDFIインテークです。インテーク部のスライドスイッチの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。

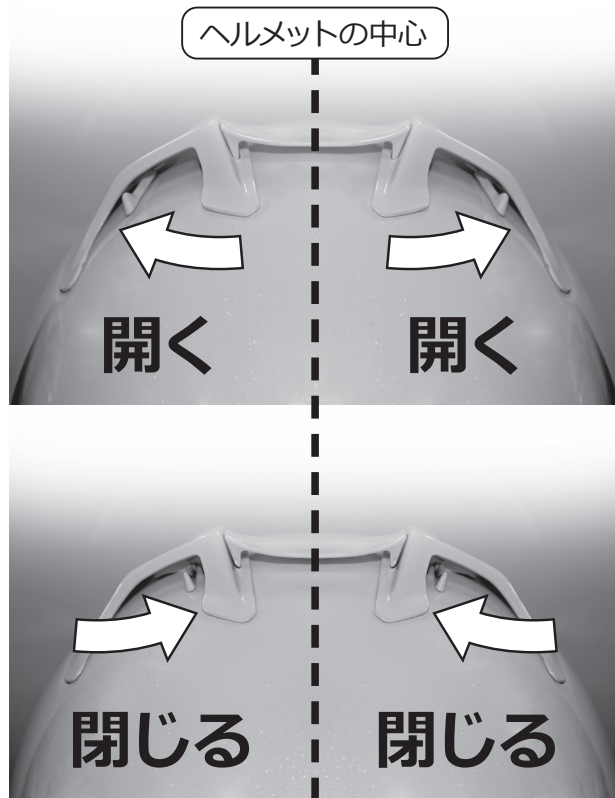


H ディフューザーの操作



ディフューザーのシャッター操作は、左右の排気口の【レバー】を操作して行います。

レバーをそれぞれ、ヘルメットの中心から遠ざけるとシャッターは開きます。レバーをそれぞれ、ヘルメットの中心に寄せるとシャッターは閉じます。



I ブローシャッターの操作

ブローシャッターは、シャッターフィンの中央部に指をかけて引き下げると開きます。閉じる際は、シャッターフィンを押まるまで押し上げます。

雨天時は、シャッターを閉じてご使用ください。

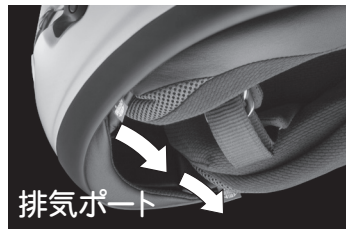


J マウスシャッターの操作

① シャッター半開

【フリーフローシステムモード】

シャッターを1段階下げると【フリーフローシステムモード】となり、導入した外気に口元にこもる空気をのせて排気ポートより排出します。



② シャッター全開【デフロストモード】

シャッターを更に下げて全開にすると【デフロストモード】となります。このモードでは、導入した外気をシールド内面に吹き付けて曇りを軽減します。



フリーフローシステムモードは、マウスシャッターから導かれた下降気流に口元にこもる空気をのせて、ヘルメット下部に設けられた排気ポートから排出を行います。



K ディフレクターの着脱

ディフレクターの外し方

差し込まれているディフレクターの端をしっかりと掴み、真っ直ぐ引き上げるとディフレクターを外すことができます。

呼気ブロック効果があるディフレクターは、その有無を自由に選択できます。



ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。

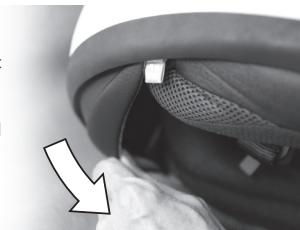


L エアロフラップの操作

フラップの展開

フラップ下部中央を掴み、矢印の方向に引き出します。

※写真は、エアロフラップを最大限引き出した状態です。



フラップの格納

フラップを矢印の方向に押し上げます。



フラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、フラップが脱落するおそれがあります。尚、ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを内部に格納してください。

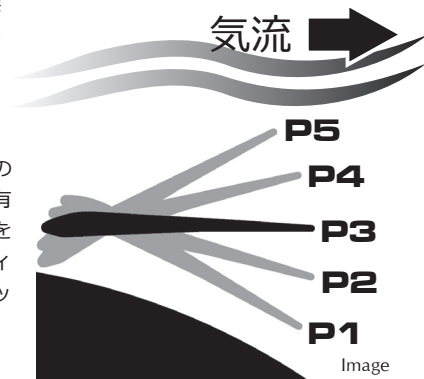
M エアロフィンの操作

エアロフィンの機能とは!?

ディフューザー後部に取り付けられたエアロフィンによってヘルメット上を流れる気流をコントロールし、ヘルメット後方に生じる乱気流を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。エアロフィンは五段階に角度を変えられるので、所有されるオートバイやご自身の乗車姿勢に合わせたセッティングを行うことが可能です。

エアロフィンのセッティング方法

エアロフィンのセッティングは、ヘルメット上方の気流と平行にするのが基本ですので、右図の場合は【P3】の位置となります。しかし、オートバイの種類やカウルの有無、スクリーン形状によって気流は変化するので、オートバイに合ったセッティングを行う必要があります。エアロフィンの位置【P1】でヘルメットをかぶり、エアロフィンを動かして試走し、調節を行ってください。セッティングが良好な場合は、ヘルメットの高速走行時のブレが収束し、安定した状態をキープできます。



走行中に調整を行うにはハンドルから手を離さなければならず、運転に支障をきたすおそれがあります。調節作業は安全な場所に停車してから行ってください。



エアロフィンはサーキット等の高い速度領域で、そのポテンシャルを最大限発揮します。よって、法定速度が定められた一般道では、エアロフィンによる効果が体感できない場合があります。また、気流を遮るようなオーバーセッティングだと乱気流が発生し、風切音やヘルメットの挙動を乱す原因となりますので、ご注意ください。

エアロフィンの操作方法

①エアロフィン後端の中央部をヘルメット前方に向けて2mmほど押し、ギアの噛合が離れてフリーになり、エアロフィンを自由に上下できるようになります。

エアロフィンを下ろす際は、エアロフィンベースのロック機構を解除する必要があります。



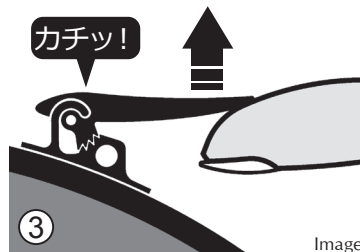
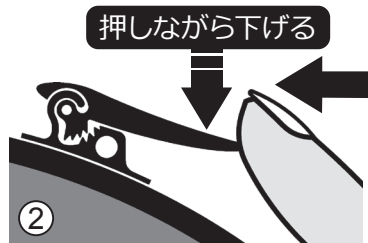
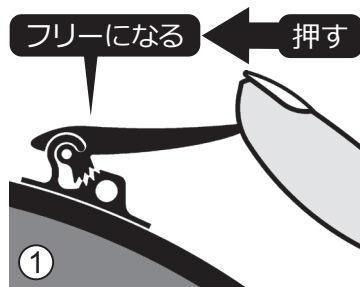
②エアロフィンを前方に押しのまま、最下位置まで下ろします。

③エアロフィン後端の中央部を持ち上げると、カチツカチツ!と4段階に可動します。エアロフィンを上げすぎた場合は、①の【ロック解除動作】を必ず行ってからエアロフィンを下ろしてください。

ロックの解除を行わずにエアロフィンを無理に下ろしたり、可動範囲以上にエアロフィンを動かすと、エアロフィン及びエアロフィンベースが破損しますので、ご注意ください。



ヘルメットを持ち歩く際は、エアロフィンを持たないでください。エアロフィンが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。尚、ヘルメットに強い衝撃が加わると、路面への引っ掛かりを防止するためにエアロフィンはヘルメットから脱落します。



N システムパッドの着脱

システムパッドの取り外し

①システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。タブは付け根を掴み、矢印の方向に引き抜きます。



②次に、システムパッドの前方を掴んでヘルメット後方に向かってバックさせます。すると、システムパッドの前方のロックが解除されるので、システムパッド前方を持ち上げます。

③システムパッドの前方が外れたら、システムパッド全体を掴んで斜め前方に抜き取ります。



システムパッド内の緩衝体は、強い力を加えると折れてしまいますので取り扱いにはご注意ください。





システムパッドを装着せずにヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通してシステムパッドを正しく取り付けてヘルメットをご使用ください。



システムネックのタブの取り付けが不十分だと、ヘルメットの着脱時や走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。

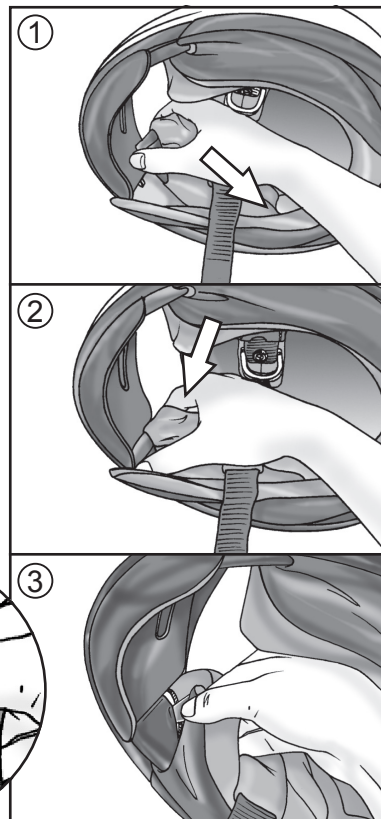
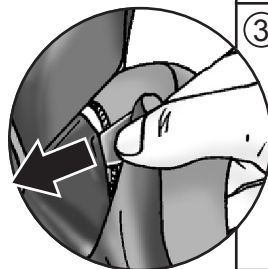
システムパッドの取り付け

■ 予め、あご紐をパッド中央の穴に通しておきます。

① システムパッドの後方から先にヘルメットにはめ込みます。

② システムパッド前方を、ロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタ付きが生じなければ問題ありません。

③ 次に、あご紐を引っ張って弛みを取り除き、システムネックのタブをシステムパッド前方に設けられたポケットに差し込んでください。

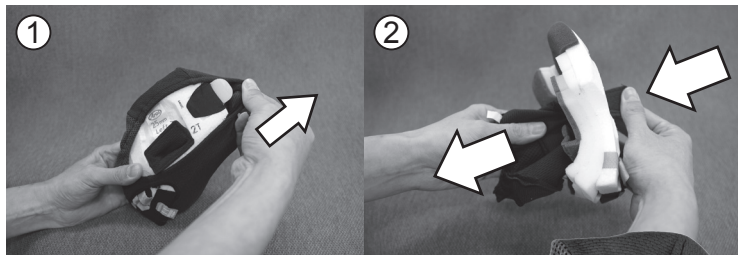


○ パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①パッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。

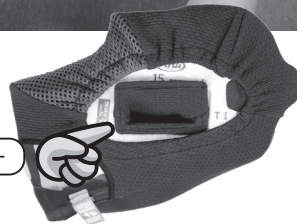
②次に、システムパッド裏面のストッパーを縦にして、パッド本体の中央の穴に通して抜き取ります。



パッド本体は熱や変形に弱い素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。



ストッパー

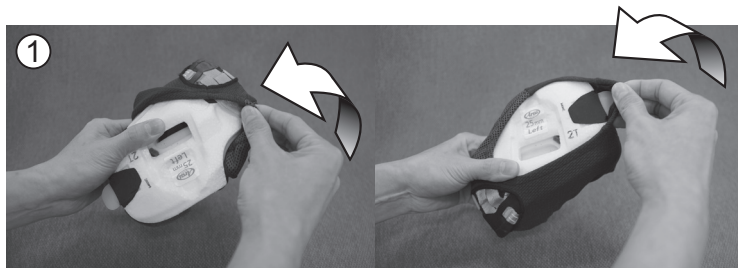


パッドカバーの取り付け準備

■パッド本体とパッドカバーの左右を確認します。パッド本体とカバーには、左 (Left) 右 (Right) の表示ラベルが付いています。

パッドカバーの取り付け

①パッド本体に前方から先にカバーをかぶせます。途中パッドを持ち替えてカバーの形を整え、後方の爪までかぶせます。

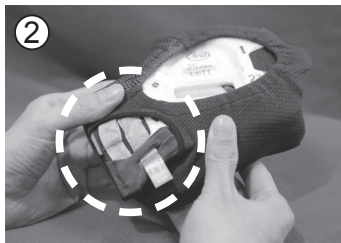


②カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調節を行います。

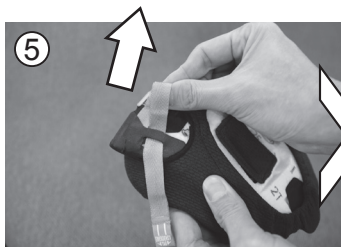
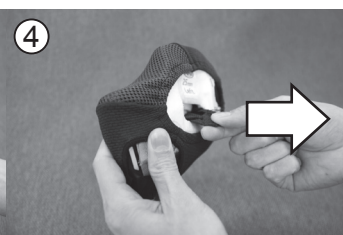
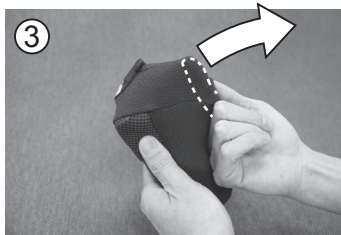
③カバーをかぶせた直後はウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドの頬にあたる面の中央の孔に指を入れ、パッドカバーを指先で引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

④パッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みにキチンと収めます。

⑤エマージェンシータブが引き出されている場合は、タブを止まる位置まで引っ張り上げます。そして、引っ掛けてできたループは、パッドカバーの穴に収めます。



このカバー位置が正しくないと、かぶり心地に影響しますので、入念に位置調節を行ってください。



エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したままで使用するのはお止めください。

調節パッドによるサイズの調節

■システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



P ヘルメットサイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】【57 - 58と59 - 60未満】そして【63 - 64と65 - 66】にはそれぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズは数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

| ヘルメットサイズ (cm) | 内装枠サイズ・パッド厚 (mm) | | |
|---------------|------------------|------|-------|
| 54 | Ⅱ-7 | Ⅱ-10 | |
| 55 - 56 | | Ⅱ-7 | Ⅱ-10 |
| 57 - 58 | Ⅲ-7 | Ⅲ-10 | |
| 59 - 60未満 | | Ⅲ-7 | Ⅲ-10 |
| 61 - 62未満 | | Ⅳ-7 | |
| 63 - 64 | Ⅴ-5 | Ⅴ-7 | |
| 65 - 66 | | Ⅴ-5 | Ⅴ-7 |
| フィット感 | ゆるくなる | 標準 | きつくなる |

システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

| ヘルメットサイズ (cm) | システムパッドの厚み (mm) | | |
|---------------------|-----------------|----|-------|
| 54 | 20 | 25 | |
| 55 - 56・57 - 58 | 15 | 20 | 25 |
| 59 - 60未満・61 - 62未満 | 12 | 15 | 20 |
| 63 - 64cm | 15 | 20 | 25 |
| 65 - 66cm | | 12 | 15 |
| フィット感 | ゆるくなる | 標準 | きつくなる |

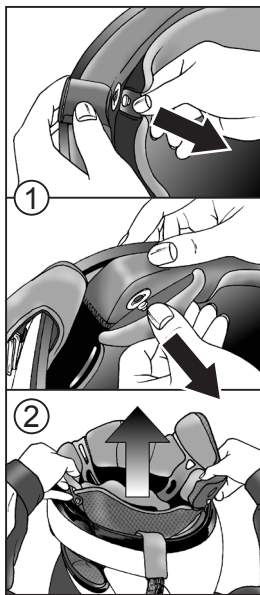
Q システム内装の着脱

内装の外し方

①システム内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内側に取り付けられています。

それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。

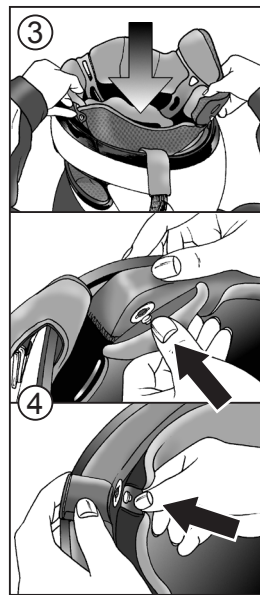
②システム内装をヘルメットから取り出します。



内装の付け方

③内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

④システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



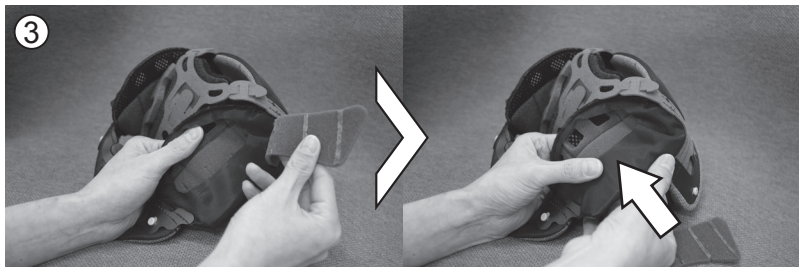
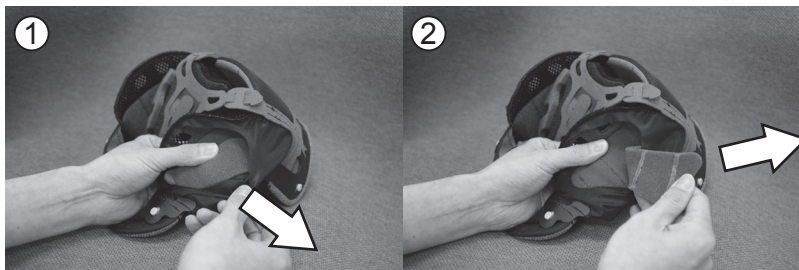
ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクターやエアードクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

■システム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で4mmほど薄くできます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



R システムネックの着脱

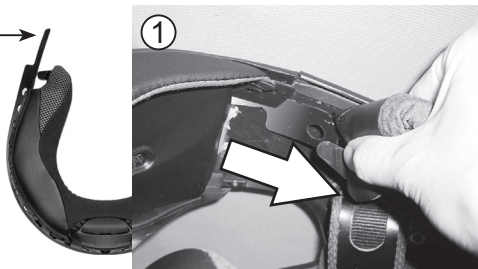
システムネックの取り外し

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【先端枠】を、左右とも抜き取ります。

②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に3～4 cmほどひねります。すると、システムネックが移動してロックが解除されるので、システムネックを安全に取り外すことが可能となります。

先端枠

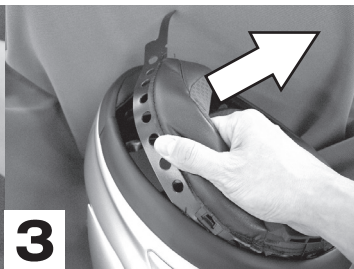


ネックの中央をしっかりと持つ。



横にひねると、ネックがスライドします。

※ひねる方向は、左右どちらでも可能。



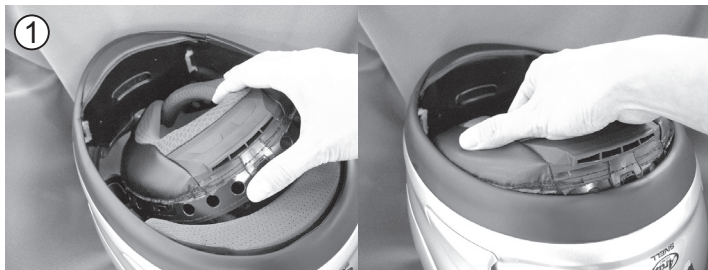
ネックを枠ごと持って取り外します。



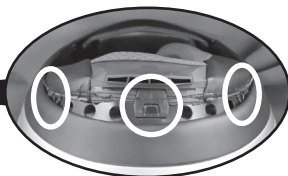
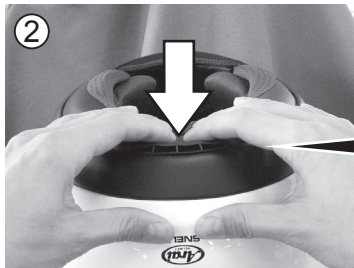
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかりと持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。

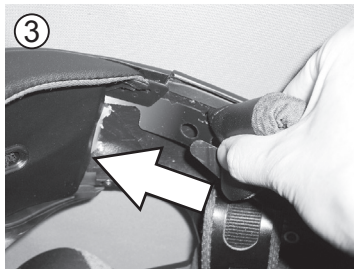


フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【先端枠】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。



先端枠が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に露出して皮膚に接触するおそれがあります。



システムネックの大きさはヘルメットサイズによって異なります。巻末のパーツリストをご参照ください。



S ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかりと持ちます。

②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側も同じ手順でストラップカバーを外してください。

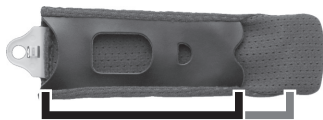
Dリング側は少しきついので、外す際はご注意ください。



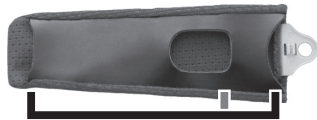
ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。

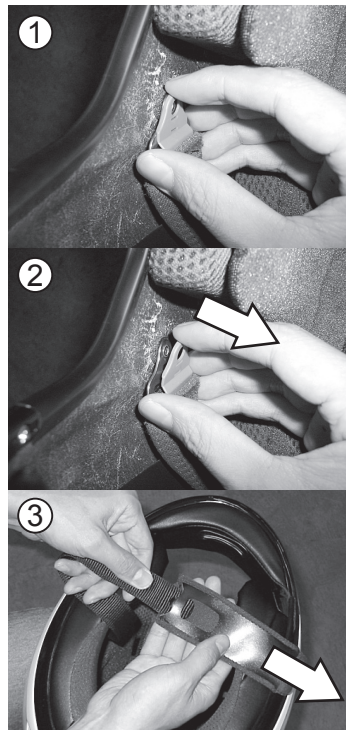
ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側：合皮の部分が短い



右側：合皮の部分が長い

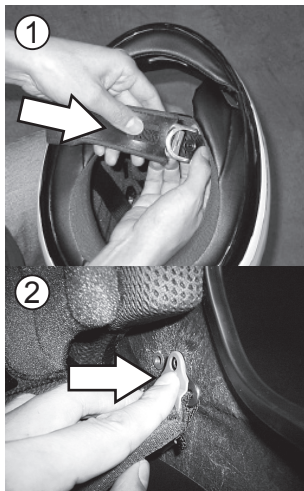


左側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のおご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

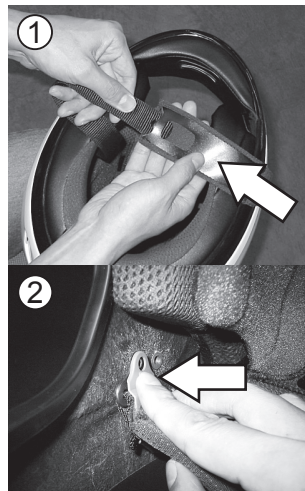


右側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のおご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



おご紐は、刻印の入ったスナップの頭を上に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

T ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ (中性タイプの台所用洗剤を推奨)

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーツ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ (中性タイプの台所用洗剤を推奨)

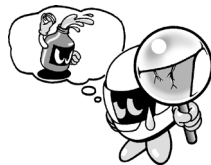
シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。



ヘルメット本体の洗いか方(中性タイプの洗濯用洗剤を推奨)

ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

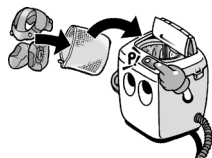


内装のお手入れ(中性タイプの洗濯用洗剤を推奨)

フルシステム内装(システム内装・システムパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック)をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

pHコントロール: 抗菌消臭高機能生地について

pHコントロール: 抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

U オプションパーツリスト

| パーツ名 | | 部品番号 |
|---------------------------|-------------|--------|
| VAS - V MVシールド | クリアー | 011057 |
| | セミスモーク | 011056 |
| | スモーク | 011058 |
| VAS - V MVピンロック120 (クリアー) | | 011079 |
| VAS - V ダブルレンズシールド | クリアー | 011063 |
| | セミスモーク | 011064 |
| VAS - V ポスト付シールド | クリアー | 011054 |
| | スモーク | 011055 |
| VAS - V ティアオフシールド | クリアー (5枚入り) | 011065 |
| | スモーク (3枚入り) | 011067 |
| VAS - V PSプロシェードシステム | | 011070 |
| VAS - V PSノンバイザーシールド | | 011071 |
| VAS - V PSサンバイザー (スモーク) | | 011073 |
| VAS - V PSピボットカバー (左右セット) | | 111138 |
| VAS - Vホルダー | 白 | 025428 |
| | ガラスホワイト | 025429 |
| | ガラスブラック | 025430 |
| | アルミナシルバー | 025431 |
| | フラットブラック | 025432 |

| パーツ名 | | 部品番号 |
|----------------|----------|--------|
| ICダクト5 | クリアー | 104114 |
| | 白 | 104115 |
| | ガラスホワイト | 104116 |
| | ガラスブラック | 104117 |
| | アルミナシルバー | 104118 |
| | フラットブラック | 104119 |
| | スモーク | 104120 |
| | フラットスモーク | 104121 |
| VAS - Vシールドベース | | 021066 |
| スーパーアドシスネジセット | | 112511 |
| IPディフレクター | | 082391 |
| ESチンカバーV | | 075711 |

※RX-7X XO (XXLサイズモデル) には、プロシェードシステムを取り付けできませんのでご注意ください。

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行っていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

| パーツ名 | | 部品番号 |
|----------------------|---------------------------------|--------|
| RX-7X EPシステムパッド | 12mm | 055697 |
| | 15mm | 055698 |
| | 20mm | 055699 |
| | 25mm | 055700 |
| RX-7X EPシステム内装 | Ⅱ-10mm | 075682 |
| | Ⅱ-7mm | 075683 |
| | Ⅲ-10mm | 075686 |
| | Ⅲ-7mm | 075687 |
| | Ⅳ-7mm | 075691 |
| | Ⅴ-7mm | 075695 |
| | Ⅴ-5mm | 075696 |
| RX-7X EP システムネック | (54) (55-56) (57-58) (59-60) cm | 075704 |
| | 大 (61-62) cm | 075705 |
| | 特大 (63-64) (65-66) cm | 075707 |
| RX-7X EP ストラップカバー | (54) (55-56) cm | 073616 |
| | 大 (57-58) ~ (65-66) cm | 073617 |

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課 ☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

コットン生地への変更は
着脱式内装のみ行われます
なおコットン内装の色は
標準内装とは異なりますので
予めご了承ください



付録①シールドカラーの選び方



晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を傷し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

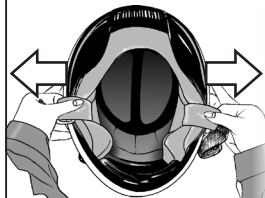
夕方や夜にはクリアシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアシールドに交換してください。



全天候

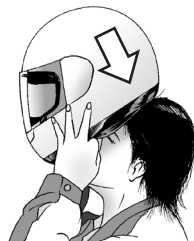
朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはセミスモークシールドがお勧めです。

付録②FCS採用ヘルメットのかぶり方



FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにすることで前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



株式会社 アライヘルメット

☎330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048 - 645 - 3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）